

作成日：1999年03月31日
改訂日：2011年02月18日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名：エルサン粉剤 3DL
会社名：日産化学工業株式会社
住所：東京都千代田区神田錦町三丁目7番地1
担当部門：農業化学品事業部登録部
電話番号：03-3296-8151 FAX 番号：03-3296-8016
緊急連絡電話番号：農業中毒事故時の問合せ先 財団法人日本中毒情報センター

| 中毒110番 | 一般市民専用電話 (情報提供料：無料) | 医療機関専用有料電話 (一件2,000円) |
|-------------------|------------------------|--------------------------|
| 大阪(365日・24時間対応) | 072-727-2499 | 072-726-9923 |
| つくば(365日・9~21時対応) | 029-852-9999 | 029-851-9999 |

用途及び使用上の制限：農業(殺虫剤)、農業登録内容以外の使用は不可

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性

- 急性毒性(経口)：区分外
- 急性毒性(経皮)：区分外
- 皮膚腐食性/刺激性：区分外
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分外
- 皮膚感作性：区分1
- 発がん性：区分1A
- 生殖毒性：区分2
- 特定標的臓器毒性(単回暴露)：区分1(呼吸器系)
- 特定標的臓器毒性(単回暴露)：区分2(神経系)
- 特定標的臓器毒性(反復暴露)：区分1(呼吸器系、腎臓)
- 特定標的臓器毒性(反復暴露)：区分2(肺)

環境に対する有害性

- 水生環境急性有害性：区分1
- 水生環境慢性有害性：区分1

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示：



注意喚起語：危険

危険有害性情報

- H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- H350 発がんのおそれ
- H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- H370 呼吸器系の障害
- H371 神経系の障害のおそれ
- H372 長期又は反復ばく露による呼吸器系、腎臓の障害

H373 長期又は反復ばく露による肺の障害のおそれ

H400 水生生物に強い毒性

H410 長期的影響により水生生物に強い毒性

注意書き

安全対策

- ・使用前に取扱説明書を入手する。(P201)
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。(P202)
- ・粉じん、ヒュームを吸入しない。(P260)
- ・粉じん、ヒュームの吸入を避ける。(P261)
- ・取扱い後はよく手を洗う。(P264)
- ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。(P270)
- ・汚染された作業衣は作業場から出さない。(P272)
- ・環境への放出を避ける。(P273)
- ・保護手袋を着用する。(P280)
- ・指定された個人用保護具を使用する。(P281)

救急措置

- ・皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で優しく洗う。(P302+P352)
- ・ばく露した場合、医師に連絡する。(P307+P311)
- ・ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受ける。(P308+P313)
- ・ばく露した時、又は気分が悪い時は、医師に連絡する。(P309+P311)
- ・気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受ける。(P314)
- ・特別な処置が必要である。(P321)
- ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける。(P333+P313)
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯する。(P363)
- ・漏出物は回収する。(P391)

保管

- ・施錠して保管する。(P405)

廃棄

- ・内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託する。(P501)

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：混合製品

一般名：PAP 粉剤

成分及び含有量

| 成分 | 化学名 | 含有量 |
|---------------|-----------------------|------|
| PAP (フェントエート) | ジメチルジチオホスホリルフェニル酢酸エチル | 3.0% |
| シリカ | | 87% |
| 酸化アルミニウム | | 5.3% |
| その他成分 | | 4.7% |

| 成分 | CAS 番号 | 安衛法番号 | 化審法番号 |
|-----|-----------|-------|----------|
| PAP | 2597-03-7 | 既存 | (3)-2615 |

4. 応急措置

吸入した場合

- ・被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
- ・医師の手当、診断を受ける。

皮膚に付着した場合

- ・皮膚を速やかに洗浄する。
- ・医師の手当、診断を受ける。

眼に入った場合

- ・水で数分間注意深く洗う。
- ・コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。
- ・医師の手当、診断を受ける。

飲み込んだ場合

- ・口をすすぐ。
- ・患者に意識がない場合には、口から何も与えてはならないし、吐かせてもならない。
- ・医師の手当、診断を受ける。

医師に対する特別な注意事項

- ・解毒剤としては動物実験で硫酸アトロピン製剤が有効であると報告されている。

5. 火災時の措置

消火剤：粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス

使ってはならない消火剤：情報なし

特有の危険有害性

- ・情報なし

特有の消火方法

- ・情報なし

消火を行う者の保護

- ・消火作業の際は、保護衣を着用し、眼、鼻、口を覆う保護具（ホースマスク等）を着用するのが望ましい。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

- ・作業に際しては適切な防護具を着用し、飛散しない方法で回収する。
- ・直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・関係者以外の立入りを禁止する。
- ・作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

- ・河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収・中和

- ・大量の漏洩物の除去や廃棄処理の場合は専門家の指示による。

封じ込め及び浄化方法・機材：危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策

- ・可燃物（木、紙、油等）は漏洩物から隔離する。
- ・排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：情報なし

局所排気・全体換気：情報なし

安全取扱い注意事項

- ・取扱後は、手、顔等を良く洗い、うがいをする。
- ・使用前に使用説明書を入手する。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
- ・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
- ・空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行う。
- ・接触、吸入又は飲み込まない。
- ・ラベルを良く読む。

- ・ラベルの記載内容以外に使用しない。
- ・農薬は余らせて廃棄することのないように全てを使い切る。
- ・使用済み容器及び散布器具等の洗浄液は農薬散布液調製に用いるなど、圃場内で処理する。
- ・有効期限内に使用する。
- ・使用済み容器は他の用途には絶対に使用しない。
- ・取扱い後は、着用していた衣服等を交換する。
- ・取扱い時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- ・かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

保管

技術的対策

- ・保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作る。
- ・直射日光を避け、低温で換気のよい場所で保管する。

保管条件

- ・施錠できる場所に保管する。
- ・容器を密閉して換気のよい場所で保管する。
- ・容器は直射日光や火気を避け、冷暗所で保管する。
- ・食品や飲料と区別して保管する。
- ・小児の手の届くところに置かない。

容器包装材料

- ・情報なし

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
- ・粉じんが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
- ・工程の密閉化、局所排気その他の設備対策を実施する。

保護具

呼吸器の保護具

- ・防塵マスク
- ・適切な呼吸器保護具を着用する。

手の保護具

- ・適切な保護手袋を着用する。

眼の保護具

- ・適切な眼の保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・適切な顔面用の保護具を着用する。
- ・適切な保護衣を着用する。

衛生対策

- ・取扱い後はよく手を洗う。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さない。

9. 物理的及び化学的性質

形状：粉末

色：類白色

pH：5.8

沸点、初留点及び沸騰範囲：情報なし

引火点：引火せず

自然発火温度：情報なし

比重（密度）：0.72（見掛比重）

オクタノール／水分配係数：情報なし

10. 安定性及び反応性

安定性：法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる
危険有害反応可能性：情報なし
避けるべき条件：情報なし
危険有害な分解生成物：情報なし

11. 有害性情報

急性毒性：経口・ラット・LD50 雄 6156 mg/kg、雌 6815 mg/kg
経皮・ラット・LD50 雄雌 >2000 mg/kg
皮膚腐食性／刺激性：刺激性なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：軽度刺激性
皮膚感作性：モルモット 皮膚感作性あり
発がん性：区分 1A のシリカ濃度が 87% のため発がん性－区分 1A とした。
生殖毒性：区分 2 の PAP 濃度が 3.0% のため生殖毒性－区分 2 とした。
特定標的臓器毒性（単回暴露）：区分 1（呼吸器系）のシリカ濃度が 87% のため特定標的臓器毒性（単回暴露）－区分 1（呼吸器系）とした。
区分 1（神経系）の PAP 濃度が 3.0% のため特定標的臓器毒性（単回暴露）－区分 2（神経系）とした。
特定標的臓器毒性（反復暴露）：区分 1（呼吸器系、腎臓）のシリカ濃度が 87% のため特定標的臓器毒性（反復暴露）－区分 1（呼吸器系、腎臓）とした。
区分 1（吸入：肺）の酸化アルミニウム濃度が 5.3% のため特定標的臓器毒性（反復暴露）－区分 2（吸入：肺）とした。

12. 環境影響情報

生態毒性

魚毒性：コイ急性毒性 96 時間 LC50 67.3 mg/L
その他：オオミジンコ急性遊泳阻害 48 時間 EC50 0.038 mg/L
藻類生長阻害 72 時間 EC50 91.1 mg/L
慢性有害性：区分 1（本混合物の成分 97% については水生環境有害性が不明）

13. 廃棄上の注意

使用残農薬及び付着農薬を除去した空容器を廃棄する場合は、次のいずれかの方法で適切に処理する。

- ・農家等使用残農薬及び空容器の排出事業者自身で、許可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託する。
- ・市町村が回収・処分しているところでは、定められた方法に従う。
- ・使用残農薬及び空容器を地域共同で適正に回収処分する体制が確立しているところでは、当該システムにより処分する。

使用済み容器及び散布器具等の洗浄液は農薬散布液調製に用いるなど、圃場内で処理する。空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後に適切に処理する。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報：IMO の規定に従う。

UN No. : 3077
Proper Shipping Name. : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N. O. S.
Class : 9
Packing Group : III
Marine Pollutant : P

航空規制情報：ICAO/IATAの規定に従う。

UN No. : 3077

Proper Shipping Name. : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, SOLID, N.O.S.

Class : 9

Packing Group : III

国内規制

陸上規制情報：特になし

海上規制情報：船舶安全法の規定に従う。

国連番号：3077

品名：環境有害物質（固体）

クラス：9

容器等級：III

海洋汚染物質：P

航空規制情報：非危険物

国連番号：3077

品名：環境有害物質（固体）

クラス：9

容器等級：III

緊急時応急措置指針番号：171

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
- ・転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

農薬取締法：登録農薬（殺虫剤）

道路法：該当しない

消防法（危険物、指定可燃物）：該当しない

毒劇物取締法：該当しない

労働安全衛生法（第57条 表示対象物質）：該当しない

労働安全衛生法（第57条の2 通知対象物質）：シリカ（政令番号312）87%、

酸化アルミニウム（政令番号189）5.3%

化学物質管理促進法（PRTR法）：PAP[第1種指定化学物質（政令番号233）]3.0%

土壤汚染対策法：該当しない

16. その他の情報

記載内容の問合せ先

日産化学工業株式会社 農業化学品事業部登録部 電話番号：03-3296-8151

記載内容の取扱い

- ・記載内容はこの製品の一般的な取扱いに関する情報提供であって、いかなる保証をなすものではありません。
- ・記載内容は現時点で一般的に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、全ての情報が網羅されているわけではありません。
- ・新たな情報を入手した場合は追加又は改訂されることがあります。
- ・注意事項は化学製品の一般的な取扱いについて記載したものですので、特殊な取扱いの場合は、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。